河東方言　箱枕　中

南堀江五丁目

淨瑠

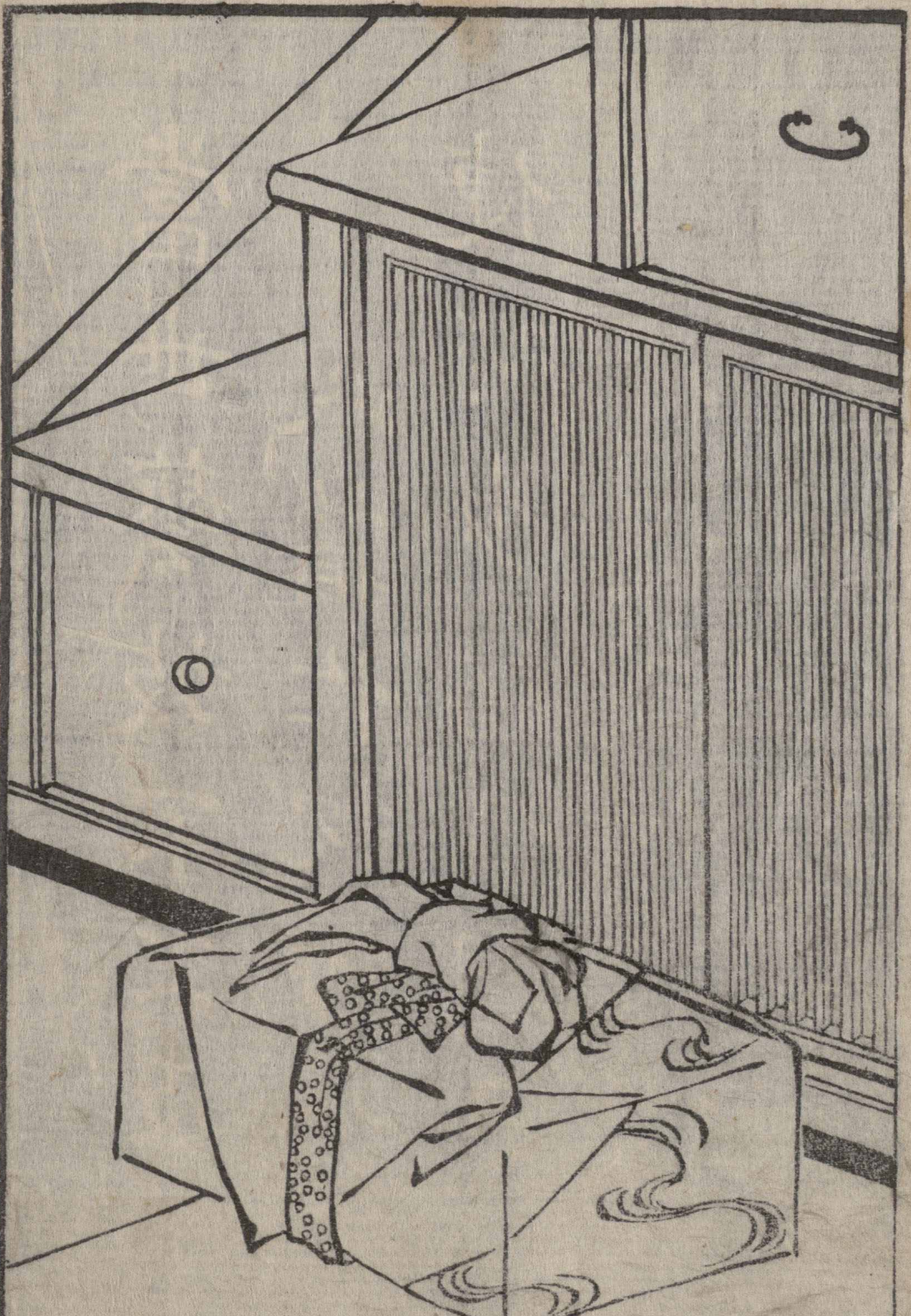
本

中村文庫

30170

當世藝妓不主皮
此箱作枕稀張絲
健咲少語偶開口
催促目柄在何時

兔鹿齋題



河東方言 箱まくら巻之中　　大極堂有長編

有意雑魚寐(あうりのあるざこね)

【市村】こゝ八九三日まで面白(おもしろ)く中(ちう)ぜへ。是(これ)はづくへの表(おもて)ぎゑふ。より江戸(えど)田のはなれ。かくの毎ひ毎ふうしふあふうしふうぞく。きうへしといやさのまいらむしいあら
ゐ、おまへちよつと来(こ)いと為(よ)ぶ。おくしとうしち出(で)へきくが。
うのれがぞうへどやへ【なむ】わしのせう(おと)てこうつかふさんへいふ
よつく。おまへさんなんぞいつまひ年(とし)ふきれし。今(いま)きてせ
てあこさ価とかう。ほどのよふ。命(おいぞ)であつよ。まうし

まづやうへいハ色もよくつくしく。ほそおもてひとつハおよひ
んとうきハとらへハけしきよきもふたつをび。男のみぎるほどよき中高鼻を
のげいハ三絃まつをすゝめるさんじゆうしい絹やいとへとやうると
小口をとうしてでうりうむすめもすまいど。それハ一とうりの。もやうのすあのおとし
おまへさんまきそめるうしざこうちうちじめてかし中くへきいくとえ家の
男の名出せバよれなどくらゐうし。市村もそれなうれと中うち中名げなこし
をしそのうしうそすまやしもへまつ。亀まつともまんずうまもおもうおもし。
よふそでつみくなとなく。中うくそのせつうきまゐして。どやすると人も
かめうけるがうけきふ。ひとつハ高名なぎもあり。うらぐ中名ふふ
むかしより市村を 〔市〕 なみとうとしせうちうじや むかし市村を
よびよせくるなり こうら人あぐら
ぜんけとうみを出し 〔亀云〕 きくるとしか十七八のそも色白くすじまるるが
ふくりのんてゐると うそてうつくしさらひらなしかぎ着ハもしくさき
のふきもいりのちりめんをさあげのきくとうちとうちしまとうるすそもめやう。
ひのトかどふそう。おどりをめひそるそろへ。だんぎるそうつしの絵縁いりの

金ちゃんのおびさげをのうれんおもしろくもしてまんどゝするゐ ㊎ おまへ
なおうれもちつらまで手がら目きれでだしてある
なんとおつでも根い男づつて、おいぞくさ ㊝ 市村さんは
みんなかうをとおつくじやうへ ㊎ ヨウくそをさをと
うけくらつてくへ、そうでつもいきしれてれきんぞうけ
珍ぞとらうなゝびなぬ ㊄ つるがそうらうそでまてだ
うそをかとられして ㊎ ナア梅まつさん、えんや梅治さん
ふせうこおまつそれど、おのこは御泉宣しじや
よつくおわかく浪治さんとよびふ中川く
の姫へ [illegible]

万人(まんにん)さまござりますさかい。此茶(ちゃ)やへ来るきてさんとこまてなさる人さんもその夜(よ)
様ぞであつくさうしなさるまハけハなにとじやくらひかけのさあぶさうてゐ
ちよもちうの比書方 【亀】 そこもとがようろしい。おのぞみかへさんハ
多その出(ど)しそのなり
おちゃうちへようきてどやふようおく。ひようつしナア 【松】
そうく ひなより小声(こゑ)のうゑしく なみ浪(じ)さんあげます なまひくる家(よし) 六十五六そ
りやふりそでもにあいねどかしらがぶさいくなるそぞつあうる
つけのまゆもつゞちらくよそくをやがそてつめしくやつ様そあしめ
かづきて 【松】 なまへさんおまへ今宵(こよひ)かざる○とせる○だぞ
きのへ
かましぬぞへ 【浪】 ありへ上腕(?)て 【定】 わしが水(みづ)あげあそふるハ
【浪】 とうぞわたのしやまん 【松】 おへませどやなア

亀 ちいと茶あへをとゝらみなんぞ、おいしい
ものゝほしいハ ム いまいちくらゐがらるまいトふ
おなびをりちきくるむまま
あぶらふつまて膳の宮る
亀 どうでもおまへんかい先(おさき)へ
トまへてぬるうちひとことを
ままさくあげて
まくらさ、おだまんけらいものゝ
なんぢやく ム それハやかりきのぢや 亀 ござるの様(やう)く
ゝどやく ム ゑへらいかけどナア ソリヤつりこじや
ぢやみ 亀 こちやひつくりしたなめくぢらをあつて
市 つるもいまぬかしてわそ、おつきふちどくふ

よつく見(め)ろ 亀 いやいやもうもうたくさんでござる
ありもせんとの、市村(いちむら)さんもてうぶくしイじや
む いやく畜生(ちくしやう)のうらみやくたいくあろ 亀 これ(ちく)の
くちへとりよつてそれへますせぬ田舎ものをかづかい
市 おれこそ土用(どよう)がりよみてつまぐ けてあろ
亀 ハイその志づんまへちと、ちつてひよきそてみへく
む かいらまぁ、ずんなとのじや 市 さあ、鈍(どん)なものであろ
む 市村さんもこうきてんぐあかるい、穴(あな)をみる

年ハ月がさついい 亀 市村さんハなんでもせうらし
てかつく。いつもずじやさつい。こちやすれじや
清経 なあ杉のさん。市村さんのこうせさハ市
紅さんはよふくかるまあ 亀 こちもそふ申も
ふくかる六い 市 そふふうふほめまさてる。縁で
上さい。そふ役ハなんでもあいうそう。そんど持ちきそ
あげゆう 亀 ほんまへ 市 わしは上ル志んなんじや 亀 どう
うあやの小じれ。ふや丁できそうある 亀 そふく

おや妙やしてとのじや【む】さつきふうう見でまじれ

とんのかど。市村さんと坂まつさんとんど。まいろ

合(あい)子女(めうと)まじやうが。なんとかみ玄さん。おまへ市

むしきんとらくまど。きんまいきんう【衆】わしや行(ゆく)

気(き)ぞくし。市村さんがらやじやとらうさ。おなきさんこの

ゆうるつとめれしてかくも。御(お)客(きやく)とらつくいなし。

どの相(せう)さじよくしてからとおそじや

【む】そのじやおまへつりはそうぐあろチト志らず

今(いま)せつの○おまへすのそれハなんのぜヱ 亀 なんだかまるで
ふくもふれしもかくつくろわだじやそのくと 市
わしやきつ年(きすねん)ぶり・そういふがでおれまいやうすと・
こんひろやぎをんへ親(ごぜん)がむかへてある 亀 わしじや
ちやうじやおいまんざんじやへ 杏 市村(いちむら)さん御(ご)
酒(しゆ)ハどうぞくごぞりますす・おまへよりますせうろ
市 わしやよく 杏 さゆうならう トあたりのあるさかた ゆゑもやくまくを
紺(ひぢ)きりやそろくとうろつけ・人(ひとま)のあれすまと 亀 今夜(こんや)ハ三味(しやみ)せん
東のすみふ・行どころふうろうしてきやる

ごもつともさまで[む]市村さんサア、おゆきなされ[市]
げんこさんと仁の字でござりましたかいナ トそゝうよつて まゐる
[む]仁兵衛はずいぶんきれいずきでなんぎなんぞへ[市]さけ
ふるまつてもその気もなんの[む]こゝろもなくなへお
づゝものじや トひとつのねだごろへ 酒をつぎ出す様子にて[遠]市村さんおゆる
常をきくはさしやよふみゆい 乃ねト常をとりかえし 乃ま市村が子
てがらそうろう へすゝめる[む]上着をとりいなば、をしなさふぞ[遠]
じんなまへ、おだんさんわらしやよつけど長閑じや

ざうりでもはかせてくださいまし [谷] おかみさん
まゆうふくびくざまの孫しそう [森] イヽヘふう
そでのきれ一度(いちど)と、袖(そで)つかくうきまがそうじめ
てじや [谷] そうかえモシ 市村さんのまへ 幸—
あるく [市] フン

御誂宣(ごろくせん)

かしまのこつまをそらめ、袖(うで)くむくそのふとりていやすね
をりくせんとうてまうへて、えろやまく年くそつぶる子
をゐてい日々く
せんじやそらふ

欠徳利(かけどくり)

又かけどころも思(おも)ひやりて、ふたのつけしとこりれ出(で)やまとこと思ふ。
よくきやなるをとふおひいならくちそとらつもかけどころふ。

うちのうるさとらすえ○又みさごくりとらそとなう。
あまこハふうぞくのふうふやうりづまでもかけずくおすでやう
なるが於しびしたらべし。
かけどもハけドうしむ

ふへい
仁之

ふとり寡るこそいふおもろい人多んまにの宴申ゑふそう
孫でおるといふそあれも茶やげいてふようくいうるえ。
いろいろまい首月
せめるなり

野暮輔評曰

こゝの條さして評すべきことなし既ニ作者の目
標ニ記せしめく主客ともに一ト通りの代と和ニひッ
ぱりまはす此客の風俗ニ於ての事を云まわるなど

きのふしの晒者(さらしもの)なれど出の芸妓(げいこ)と芸者(げいしや)
ともに連(つれ)て南禅寺(なんぜんじ)あるひは真如堂(しんによどう)など流(なが)
しゆく人物(じんぶつ)なるべし繪(ゑ)姉(ぶこ)もしまき妾(せう)
夢(む)ふ身(み)をいふる御影(おかげ)なれ正月六月の
千寿(せんじゆ)も絶(た)くなく自(く)年々かれし乃様(ぶ)なる
なし出精(しゆつせい)しといふる御(おせ)信(と)なるべし

許情雑魚寐(できざこね)

客八かう としごろ二十二三ぐらゐあさぐろく中ぜいようすこし上めうすう
うゑ。なまりぐへの中でさつびぎの三ぜんかんざうらふの江戸住
のをびせんさい茶のけもどうかんのけをとり。けゆあげてうちまん中へは
一二年で。ごろうかまそでがけまいてふがなりい茶やも前くへゆき
ますおくこの里へくるゆゑがてとまなじみあぜいあれどこの
せうぎのがいとがいろでちうくめるともことゞもかし 客
八さんあのあそばせなれんでざりまて。一向おらぞでうん
どうが。とかうさ外へいでのものであろう 八 イヤこの
お内ぐ。太うぬをくるまさ行きうふ。ふくろさ橋
とあんなんぐ 客 うそをと。なまぞてきをせませう
う 八 子ぞもるおそみきのをがよへ。いそうきやうわさの

ほらく徳じや。まあ盆いちのまんかい 玄 それ
でとおさへと名ざしの子がなりませぬぞへ
八 なしぐさめかすい 玄 ゑらしめまろじや。そして
ござるへなあくしませう 四 なんぞもう人合て。
わしのきりふはまつりそうめのがよい。こなひ
いなけしる代じやふいうチト二かいへあがり
ませう ト二かいへあがる。こゝにいつもとつあそびのめど。そこよひか
なをふ志あんのあるとし男衆。二かいへあがりしかゝり
ト小めろはさうみをとつてゆう。
玄 なんぞおさめのくまでへよ ト扇ださんとふでるさきたなぐし

こゝへも
こひおげ ちよつとおまへトござんせ
をらぬと [八] ござりますと役(えんや)る
だいじんちらしいトこゝよりひなくさししらぬのんで [合] く
おるうちあやまられしと
はくむ二ツおうらんろ [八] ずらぶんよずが・ちつし
そうざんがある [合] あしくまつくなんで、おまへを
[八] ちよいとう松江(まつえ)をよんぐ・ざうよ○をするふ
まつく・おまへ孫きく孫をし・まつじ
かゝぐあいのあるやうして・よ○さしておく
まんう [合] そうとらおのみさへ世つらうのく・どう

すとよろしいが。まふし おのこゝろ おまへさん
のけしへてまるこじや ないが。きんぞくり
むしきるのウト 小やろをよびて 杉江とりて出る 八 くりむをてる
ないが。ちとたづねるいふすがあり。つる一ろちて
すむてしなつきいが。入んでこそぞとろうしが
ふかい思ふ。こなたい実のじや 図 そなきでるひと
とふうふるじが 役きぞ辟める辛を。
おのこふいまぬしみへいくりをとゝづく

すまつく。まるしてつんてくそまとでといやと。
このまゞつくしかんまんしてゝがらかく八しじが
あの子ふかまそていねまいし。あやうくかりふ
たしまはじ。ござひりみござ葛く。へさを下まうる
づりじやがいまいるそのでもりしがきうね私とと
ぐいつくかしい団それしせらちじやトいつておるら卜
ハイ松江さんあがりますす 松江
しかぬ二三いろまろくぶじかゞりうるうとなまどゞ郎
無くゑらのくようくふところ同てまゐおりかそくワくひゞかゞがまとうんば
かゞくあそあう。某猶へかんどとのすそふつゞびしのねへよう。下なるる

紫かべちりめんに衣紋繻子の袖とめのえりかけたる
あさぎちりちりめん風通の金入の帯　おださんはおつぎ
るおちうぐちうっ。八さん、きつひきるで、ち
よつもちうしておられんぞへ　四　なんじやい。
出番のちうだら、彼岸の茶屋これよじやある
まいしおげまやくらふく丸をつまらもお
うしへ　わえ　らく、おまへさんじやふよつくもと
きぬ母ませぬ　なを　八さんもけしからん。こんし
ゆゑなんぞ　わえ　へま九うつくそうつことで

あつくがてうしやびゝきゝふまつく。八さん
ましてる峰(おく)列がとをてし。ぞあつくが(がきやく)ろうじや
あゝんて、あいつくきゝて 八 闇(くら)くずくすやをとろ引(ひい)
ろうでてもしじやあいろ 〔松?〕 かんらんしてお
くもじ、やうしおやてゞいつきふしくく行てじや
なや(きやく)みもごさりますか 八 ぞうりがくか(がきやく)やくろがくく
さんあるして。そ(えんや)徒をつもりも衣(いとう)きて丈(じん)
ぶんなくらがわる。あうし(この)けらがつりまで、おがもつあ

さんの遊(あそ)びにまゐりて、升(ます)やのおくへ入(いり)て
いろめじやなどいふおつめが質(しち)おきし着物判取帳(はんとりちやう)ゟ
いとゞきちやなどゝ先(さき)やへ〳〵質(しち)や [おはな] いりや
こゞまりて、ひさしいもんじや、わたしも近来(きんらい)
は初(おぼ)まゞげもやめましたが、わたしのゆうさゑ
しら升(ます)やじやござりませぬ、玄黒(くろ)やぞうり
ますと [なかま] ホンニ そうおつしやりや、わたしの所(とこ)で。
升(ます)やら米屋(まいげ)が小豆(あづき)ぐら〳〵、数(うず)のまへ家(わ)
素人(しろうと)でも出(で)ぞ(ど)かゝりすまつく、中気(ちうき)くせ

小三金五らうのりあひをかゆうう。みろうゐ
手おちくねじや幸はイ手【伝口】をよぶうてう。こら
のそこうし金五中めそぐおつくうしう。めう
おづきもらんが。をしみて出雲のわきいて。
たつの出雲がりじや【八】中めこととしが
つまへ。月人もて幸てうごなり。居よんむ
きぐ。うんとおうく。御とのぎれうちへしを
むかしぐある。ぞし今やどきんご。いなびそこと

かくだしおしじごッぎうふしそわけぐうの
まんぎう［かえ］ぎうるんのやまん。そうおさんう［なか］
かげぐくらうそし八さんかゞのおうくめある
まん［かえ］あまくまな。かよるくうらよふ。なまれ
ぐうらてく。ぐうらぐちあんしておいぞるの
じや。くらややもくうつ孑てし。八さんのざし
きんかまうんのまじくま。ずん孫くわくが
るおうくうりまんじじやぐもくふうてう［なか］うん

やとさくイる、ちやう外ぞくいるどで、すのこ
ふのんぐわそじやう、たまぞひとりよびん
うこ、せんどうくすくわ[illegible]してのじや 〔八〕 こく
れおだんれが、松野ださもめくれしれど 〔すまま〕 アノま
あまつてませがよふつたりかるすじや 〔八〕 そうまさ
でとゑまとのろと一ぢちびじやよつて、
そつぞまつえてまあくれし、てまをもあし
もしおもせくさのんどのじや 〔おもえ〕 なるよう

そもそもこゑをとりつくろひおそりさげしと［ちびせ］お
のまこも帰郷のくせふ・みちうじやみ［おぢえ］アく
すぢうどじやまん［八］りう舞てうきくじおか
うんう・りしやちよつとしりつぬ［おぢえ］すくるさ
りつぬやまみがるうくじや［八］こえるよりきまるね
ふ一生のとのこゞあつぎらく〳〵まへう
［おく口］いうくくの手うくなんでもきくませう
［八］ちやくのけくまんくんよ碎くう・たえ

八　さ作（や）りてそのまつの気（き）じゃぞ。さとりよろもさ
むし。きさ目しだしよぞきつくんだ毛（け）も入（い）り
こやせわりて。常（とび）とも衣（わ）裳（とう）もめつぐ。おれと
居（ね）てゆるふとくるまわう　杉口　かこやござる
ござらつくさうが。そうぞう太（や）のりそうな
来（こ）じゃなひうへ　八　そふいふ幕（まく）としかへ　杉え
ござやうすらんとらくしい　八　どうしてござ
トらてなだりる天狗（てんぐ）物（もく）まり。おろをてもちふ（ゑんや）おくん（あい）さすつそり。むあなも
八ゴ留めまするさころのワけをとらせじ。まつえもせらしてあそ

みるところへ〔なま〕御酒をとりまほしう。ゑゝろうおや
八がうりどうろ
もとく〔八〕ちまとでとろよト美けんでうらて ゑんらぞお
くまを
おなをうちふそうしを かゞづ白窓ゞくるつをまち〔松え〕とうしふて とおそくえんで ちくねじや
ぞへトつぐ〔八〕ぶつと一口 えのく ひとくち サアゑれぢゞんひとつぐき
てかられトめう〔松草〕松えさん まつら おめでとしト手をうさ さうと〔松え〕
ハイトちろく松え まそりく まてよ〔八〕ゑまどうすぢやまとかむらん。まん
みんながまあうらしちくへおまちう こ〔松え〕
アイトそのまゝ座へやうとするを〔八〕よいうしつよ飯りどうぞ とび 附をと

そつくり続くおそれ。ことごとくとみゆる気(き)なし常(ふだん)も
うまうねりれじ。喰(くひ)さへすれど(こ)あほじ。ひとつえそ
ねくめとるりつくじや〔替〕学(とび)あつくかそもご
んなへがるアトいつてそい〔八〕一(ろ)ぷくのましんう〔替〕アイ
(てゐる)
ト八めうがきせるをそつくおつんの〔八〕かんえんへトすさせそ〔替〕
(いだこともそいつけく中る)(かつそのひ)
まつまそへやの〔八〕ヲツトよし〔替〕まとつけようく
〔八〕おうつや〔替〕ちぶうきくなへのうじやく〔八〕き年(きさま)
の店(とせ)れ(て)小まつてき(きろ)まむとも。うけくるるそじや

かへり〔楚〕てちうせんへが。おうみそうのくち
うく〔八〕いくぞめくらがり何ともそのぶしゝ
ねまがぬ〔松〕そんなら、おまへもしつかんろきさう
〔八〕そもの気もなひが。おろちん妄いよのまゝの
まねくるがあるふまつく。そこのじやがあ
また【は】メくわるぞめなひか　トいふてもうそてまたいくれ
おぢんが気が入てきまつ史。
かくとみしゝおりつくぐどうきてよのとうひとざさんよのさ
らみん。源乃御かとまかくなるうらんとも。ませんでつかけゝうそ。
おつゝるゝらふかる見んがうて　〔松〕それそうそしやあのま
うりしき思ゐまゝ向なり

よいこんくろのかゝさま〔八〕それはさまでじや〔ハル〕お
まへ、おふくろりんうはくつきじやうぶ〔八〕それは
あの兄じやもいつてく裏からゑろう〔ハル〕て
それじやさかいへ大坂くりやくさくあつく
しれど、あの子中なかうらを出ぬくじやのじや
さうな、あの子もあの人中志之助さんまで
うそ、息人来て出くのじや、きよさんのおれは
小さんまでそ、あつく、そもでわもしけつくと御分

じやうろく御客(ごきやく)をちうしそのじやや
[四]フンさふろ。ぎろうまそしかうつくしゑん
まうしおもつさくもじ。ぞれしだゐ一トまきさ
つらもらやじや[松]なぜきゝ[四]ちうしとうお
うひげろへナシトよのおさうじんじやが生(き)く
さ鬼うふかうくこんろトいふかうり御(ご)きを亭(てい)へ
くろじまし。ほうえゝか
まそいねどゞ。をしさし
くうたどくとやつそうくゑん(とゝと)[松]よしややいやいよ[四]いやふ
へ壱そうへせうらじややくまぐじ。ぼまてくぐめん

ぐちじや 扨 さん繕うみ トちらし髪を 八 拵さう。
ふうふなかじや トこゑそぶる 扨 大イきにへびきんの
八 きつゝいうきつゝんぶおまちらすれどもトおすそをよろしく
おしとをまろ 扨 をちるるおまへの婦さく都さんぜト
おしとふりのけ すそをおろし 八 すつもぶまいもかうなくれねまい
ねさるれもとおかもといろくへじややらやうつう松山
なりしトスリ おせる 扨 ひつうしそじやしわくを
アつかどくおんまりわかうつう 四 おまう きをやうお おまてれおおどころかそ

るさせ成て御ひざをそ
ゞへ、ひさくゞをあけて　こゝろもとなげなる出てこじ
やあらまへし。その中にさんつく事いらへじや
なんう。おもしろきとなへト　ひさゐうしろもぢくふる
うまうぞたるびき
松兵　りとよりまうし手でとおる思ふ。かうゐすもしせうらでざる
まきうし。まゐらへひさぐひくとうしてとてろ所きやく思ひ。やとへ
それど。おまゐりきんつさすれときめどくふおおりひ。八めしうがうかを
それぞ。行中うちきもあうそつきおもまれてさすがおしおぞる。まう
うりし思ふ。孫と
ゐけしまふして　八さんく　八　ムヽなんじや是らしさい
松　ろうさむい。さそつとこゝろ人まりうま　八
イヤさくまろうきまとまうしまる　松　こと／＼かん

まんじや・わくしゆうらく・ぐらう　ちがさい
ますさぶトラよせる　四　さむいろドレ　[illegible]　ヨ、
らんそうじ

十字画 よみ十の字をまげれバ七ノ字なし。縦で画よりするを
つやくしてずまげくともいふなり

北方 わきよりぶつさの画をいぶを甲んぶつくるをいふ
をもつふそうかり

閫中 よみ志つねふ志つてやうふいつてものをいつかつやて
らそれとの。又ちかづをちくめがくるといふ志づん
の志つねくさくをとふく志やづるといつすくぞれを

勒 まちづへく アミチウとよ孖も多し
よく野帳をはどうえし。志つねつうも志つて甲うふ・
太てひまはのまちつていふの。払つけん多てらいふのと寂ちんつかまし

小刺刀とんだ一句案じ出し小刀をさげるといへどもあれど、さ
つく、ひげのあつさを隠しけるのみならず、さが
ろなどとして
ころなり。
頭付とは若楼であるつくのつく、法くあるゆゑを
のかりふうなれ、かうてのる書がつくのことふふうとく

野芸浦評曰

八平寺もと小松ゐんあつて微が家乃黒白を採出
さん商と、頭をとびたし和小松屋のぬく
情先人あつてまうて松人会を祝しより一度食に係
よいたる松紅之事ゆつと出あるゆり見えけるし

なれども。まろ人も一度ハ化る無なりさる
に八五郎。娘さ執心なりしが。小稲を
ふみて粮乃さんとするとき。おとえおもひ
えしく おけるれ。その他の西すべ
き手妙なり。女乃うち おえん一ぞん乃手練あ
らざ。八五郎後も先へもゆきれぬ場所を
いざ乃ふ。工風きもすくあるべし。八分郎と
いはれ一晩毛もある世乃通人なるべくぞ。世

はぐらかしをくらうてポンと悟るへし

て。狂言をひきかへく手管あるべし。互

ふそれはをまかぬも。勝負同位のちうし

競うして。角力をまづあづかりなるべし

江東
方言

角力競中　終

国立国語研究所
30170
★ 図書館 ★
国立国語研究所
1001948197

[illegible]

99
86